



栢野公章さんは1970年に写専を卒業。奥様の千明さんも1975年の写専卒。息子さんの誠之さんも1991年の写専卒。和也さんも2001年の写専卒。そうなんです、カヤノ写真館ご家族のみなさんが写専卒です。

栢野 公章 × 千明 × 誠之 × 和也

©カヤノ写真館

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.39

UP! SPECIAL  
HAPPY is  
FAMILY



©カヤノ写真館

最近、  
驚いたことはありますか？

アナログ人間には考えられないくらい、物事が早く進んでいることに驚く毎日です。

ファミリーで写専卒というのも珍しい。公章さん(68)に写専時代の思い出を聞くと、「よく喧嘩に巻き込まれた思い出もありませぬ(笑)」当時の写専には大勢の学生がいて気の荒い学生もたくさんいたのだろう。千明さん(62)に何うと「古い建物で暗い地下室での暗室作業が懐かしいです」印画紙に浮かびあがる像に感動した純粋さが目に浮かびます。誠之さん(45)は「プレハブ校舎でした。いつか倒れるんじゃないかと(笑)」この時代は阿倍野の校舎から北加賀屋に移った頃でしょうね。和也さん(35)は「学ぶことが多くて、時間が足りませんでした。でもボクの学生時代は充実していましたよ」きつと真面目な学生生活をおくっていたことでしょう。

「ご家族で出かけることはありますか?の問いに「お稲荷様への初詣は、唯一お店を閉めて出かける家族総出の毎年の恒例行事です。それ以外の日は誰かしらお店の運営に関わっていますので、家族で出かけることはありません」基本は年中無休のようだ。お客様のことを思ってお店がいつもオープンな心にかけているような。ここにお店の姿勢がよく出ています。ご家族のそれぞれの良い部分を教えて下さい」といとうと「それぞれ皆、真面目に仕事に取り組んでいるところが良い部分だと思います」と答えが返ってきた。素晴らしいですね。お互いに尊敬し合い、信頼し合い、仕事に喜びを見いだしている。ストレスを感じさせない家族であり、大切な仲間である。皆さんが卒業された写専は現在、長居公園の近くに引っ越しました。鉄筋の建物です。もうプレハブの揺れはありません。学生同士がもめて喧嘩をする雰囲気もありません。真つ暗な暗室は現在も続いて存在します。学校の暗室で皆さんが撮られた写真を現像するのも楽しいですよ。いつでもお待ちしております。(は)